

拉致問題の行方と今後の日朝、日韓関係

「コリア・レポート」編集長 辺 真一
ビヨン ジン イル

- * 拉致問題の進展は安否確認から
- * 放置されてきた残留日本兵の存在
- * 日本人であることを隠し続ける理由
- * 拉致ではない特定失踪者の存在
- * 新たな拉致被害者は出てこない
- * 死亡通知のなかった4名に可能性
- * ボーダーラインの曾我ミヨシさん
- * 最終決着のための徹底的調査
- * 残された戦後処理を解決する
- * 15年7月までのシナリオは何か



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は皆さんお馴染みの辺さんに来ていただきました。またまでございますが、たいへんタイミングがよくて、皆さんもお知りになりました。2年ぐらい前に、『本当のこと』を伝えない日本の新聞』という本が出ましたけれども、昨今の状況を見ていると、馴れ合いで何も本当のことを言ってくれないという感じがいたします。特に北朝鮮の拉致の問題につきましても、物がどこかに挟まっているような感じですね。われわれは本当のことをきちんと知らない判断ができませんので、今日はそのあたりのところを辺さんにじっくりとお話をさせていただきたいと思っております。それではよろしくお願いたします。（拍手）

辺 こんにちは。今日は1時間10分と短いですが、最初から最後まで拉致問題一本に絞ってお話をしたいと思います。

その理由は、今司会者の方からもご紹介がありましたように、マスコミが、この問題については新聞もテレビも横並び報道で、どこも本当の裏側、真相に迫ろうとはしない、これが私の偽らざる実感です。たとえば安倍総理が日本政府代表団を北朝鮮に派遣した最大の理由について、拉致問題はいかに重要かというメッセージを北朝鮮側に伝達することにあるとおっしゃっていた。その意味を私は重々理解できます。

しかしよくよく考えてみると、一連の動きがすべて2014年5月30日のストックホルムでの日朝合意に基づいて進んでいる。その日朝合